

檀原市立図書館だより

平成23年7月10日発行
第23号

檀の樹

目次:

夏休みの
おすすめ図書
2～5

図書館員の本棚
6

お知らせその他
7～8



夏休みの おすすめ 図書

夏休みを迎えるに当たり、季節展示やPTA新聞などで取り上げた図書をご紹介します。ただし、このページで取り上げるのは、皆さんに手にとりいただければと思っているもののうちの、ほんの一部でしかありません。直接ご来館いただいて、書架を巡っていただくのがなによりです。

夏休みのおすすめ図書 (1) よみもの

No
Image

「くらやみえんのたんけん」

石川ミツ子／さく 二俣英五郎／え (福音館書店)

こども園に残っていたつとむとたくは、先生がいなくなってしまうと、部屋のあかりを消し、真っ暗になった「くらやみえん」を探検することにした。

真っ暗な園を探検するなんて、考えただけでワクワクしませんか。親子の読み聞かせと一緒に「くらやみえん」を探検してみてください。

雑誌『こどものとも』1980年7月号の復刊絵本。

(幼稚園～)

No
Image

『はじめてよむ童話集 ちょっとこわい話』

野上 暁 編 (大月書店)

サユリはとってもこわがり屋です。この前テレビでみたドラキュラが、こわくてたまりません。それなのに、おにいちゃんは「ドラキュラがでたー」って、サユリをからかうのです。ある日、突然玄関の戸があいて…。

「ドラキュラなんかこわくない」(大石真／作)ほか4話収録 (小学校低学年～)

No
Image

『ゆうれいレンタル株式会社』

山田 陽美 作 こぐれ けんたろう 絵 (あすか書房)

兄の優真は、体が弱い弟・勇のために、自分のことはいつも後まわし。悲しい思いをしている優真の前に、弟の勇そっくりのゆうれいジュンが現われて…。

一晩百円でゆうれいがレンタルできるなんて素敵じゃありませんか。愉快で、少しホロリとするお話です。福島正実記念SF童話賞大賞作品。(小学校中学年～)

No
Image

「きつねものがたり」

ヨセフ・ラダ / さく・え うちだりさこ / やく (福音館書店)

森番の家で飼われていた賢いきつねは、人間のことばを覚え、文字を書いたり、しゃべったりできるようになります。やがて、きつねは、「りこうなきつね」になるために出かけていきますが……。

失敗を重ねながらも、賢く成長してゆきます。

(小学校中学年～)

No
Image

『**テオバルトの騎士道入門**』
齊藤 洋 作 おぼ まこと 絵 (理論社)

祖父から伯爵位を継ぐことになったテオバルト。けれど、日頃から読み親しんでいる「騎士道入門」に影響され、「竜の涙」を手に入れなければ一人前の騎士にはなれないと思い込んでしまいます。従者ハンスと竜退治の旅に出る主人公ですが……。その後のユーモラスな展開は、実際に読んで確かめてください。
(小学校高学年～)

No
Image

「**小さな可能性**」
マルヨライン・ホフ 著 野坂 悦子 訳 (小学館)

キークのパパは戦場で働く従軍医師です。キークはパパが無事に帰ってくるか心配でなりません。無事に帰ってくる可能性を大きくできればという願いから、キークはある錯覚にとらわれてしまいます。

戦争が、人間ひとりひとりの内面を、とりわけ成長の過程にいる子どもたちの心理を、どのように歪め暗い影を落とすかということを、巧みにえぐり出しています。
(小学校高学年～)

No
Image

「**光村ライブラリー 15 ガラスの小びん ほか**」 (光村図書出版)
「ガラスの小びん」 阿久 悠 著

甲子園の土を、小びんに仕舞い大切にしていた父。感情の行き違いから、小びんの中身を捨ててしまった著者。誇りや自信や、さまざまなもので満たされていた小びん。捨て去ってしまったことを叱るのではなく、替わりの何かをつめてくれるように、父は息子に伝えます。

「小びんにつめるものは、まだ決められない」と記した生前の著者がつめたものは、残された作詞の中にあると思えます。
(小学校高学年～)

No
Image

『**読書の時間に読む本**』 西本 鶏介 編 (ポプラ社)
『**レモン**』 梶井基次郎 著

「読む」ことのよこびのひとつは、「見る」ことにあるのではないのでしょうか。著者の視力を通して、対象の素晴らしさが伝わってきます。

『そのレモンの色彩はガチャガチャした色の諧調をひっそりと紡錐形の体の中へ吸収してしまっ
て、カーンと冴え返っていた。』

紡錐形にふくれあがった緊張が、一瞬、意識の爆発を誘発します。

太宰治、阿部昭、新美南吉、三島由紀夫、三浦哲郎など、他の収録も粒揃いです。

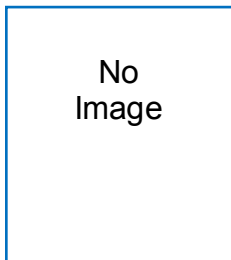
(中学生～)

No
Image

「**ある小さなスズメの記憶 人を慰め、愛し、叱った、誇り高きクラレンスの生涯**」 クレア・キップス 著 (文芸春秋)

第二次世界大戦中のロンドン郊外、著者のキップス夫人はケガを負った子スズメを育て始めます。クラレンスと名付けられた飛べないスズメは、爆撃に怯える人々に小さな喜びの光を届けていきます。「愛玩動物の物語ではなく、何年にもわたり、人間と鳥との間に培われた親密な友情の物語である」(著者序文より) ペットとしてではなく、野生動物として細やかに生態を観察してゆく著者の愛情が、本文の随所にあふれていて、胸を打たれます。
(中学生～成人)

夏休みのおすすめ図書（2） 絵本



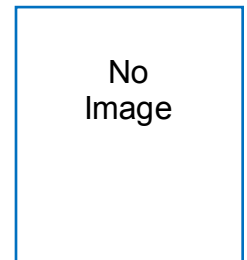
「四谷怪談」 *③
さとう あきら 文
岡田 嘉夫 絵
ポプラ社



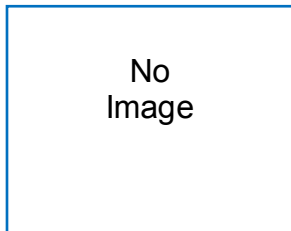
「アンモナイトの夏」
本木 洋子 文
高田 三郎 絵
新日本出版社



「コーラルの海」
サイモン・バトック 作
スティーブン・ランバート 絵
かがわ やすこ 訳



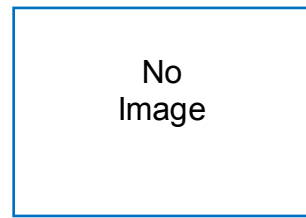
「かぶとだ！」
いけ じゅん太 作絵
国土社



「ウエズレーの国」
ポール・フライシュマン 作
ケビン・ホークス 絵
千葉茂樹 訳 あすなろ書房



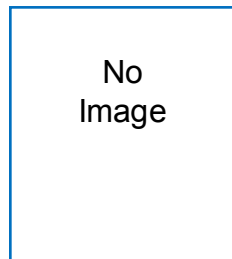
「あの夏」
ガブリエル・パンサン 作
もり ひさし 訳
ブックローン出版



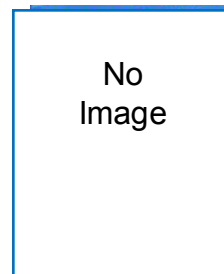
「かまきりのちよん」
得田 之久 さく／え
福音館書店



「雲のてらん会」
いせ ひでこ 作
講談社



「じごくへいった三人（行事
むかしむかし・八月） *①
谷 真介 文
赤坂 三好 絵
佼成出版社



「なつのやくそく」
亀岡 亜希子 作
文溪堂

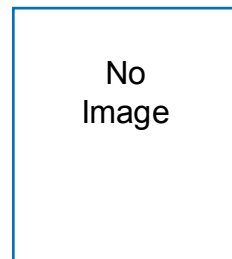


「あの夏の日」 *④
葉 祥明 絵／文
長崎市 英訳
自由国民社



「みんなの空 みんなの心」
パム・ライアン 作
メアリー・ホワイト 絵
橋本 和 訳
エヌ・ティ・エス

①—「じごくへいった三人」(第15回巖谷小波文芸賞、全国学校図書館協議会選定図書)、②—「天人にようぼう」は、それぞれ「お盆」と「七夕」という夏を彩る年中行事の由来を取り上げた図書です。③—歌舞伎風の作画が目を引く「四谷怪談」もユニークな一冊。



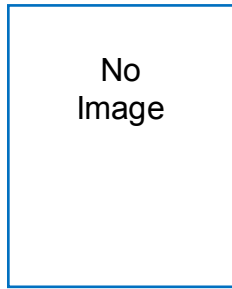
「天人にようぼう（行事むかし・七月） *②
谷 真介 文
赤坂 三好 絵
佼成出版社

④—「広島」「長崎」「8月15日」は、日本にとって忘れることができない夏の記憶ではないでしょうか。ソフトなタッチが印象的な葉さんの作画が、あの日を境にして失われてしまったささやかで尊いものの数々を想起させてくれます。



「レイチェル」 *⑤
 エイミー・エアリク 文
 ウェンデル・マイナー 絵
 池本佐恵子 訳
 BL出版

⑤—少女時代に森の奥で見つけた小さな巻貝の化石。「大昔、ここが海だったなんて！」その驚きが、彼女を海洋生物学の世界へいざないました。後年、自然保護への献身によって名を残した科学者の伝記です。



「海へのあさ」
 マックロスキー 文・絵
 石井 桃子 訳
 岩波書店



「なつのいけ」
 塩野 米松 文
 村上 康成 絵
 ひかりのくに



「はなびのよる」
 稲田 俊作・佳子 作/絵
 佼成社出版



「あおいむぎわらぼうし」
 武鹿 悦子 作
 宮本 忠夫 絵
 佼成出版社



「それはすばらしいなつのあるひ」
 新沢 としひこ 詩
 あべ 弘士 絵
 ひかりのくに株式会社



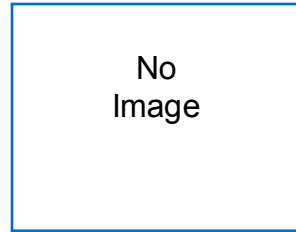
「うみべのステラ」
 メアリー＝ルイズ・ゲイ 作
 江国 香織 訳
 光村教育図書



「川はどこからながれてくるの」
 *⑥ トマス＝ロッカー さく
 みのむら まりこ やく
 偕成社



「こどものとも傑作集 たなばた」
 君島 久子 再話 初島 滋 画
 福音館書店

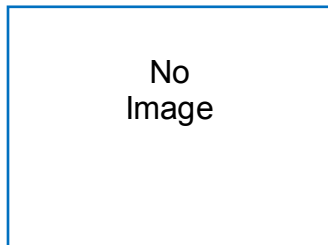


「ひがた だいすき！」
 くすだ ひろこ 作・絵
 西日本新聞社

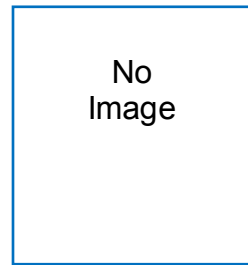
⑥—発刊27年を経た現在でも、根強い人気があります。ニューヨーク・タイムズ社「1984年度、最もすばらしいさし絵の児童書」



「青いやドカリ」
 村上 康成 作
 徳間書店



「新版 祇園祭」
 田島 征彦
 童心社



「みさき」
 内田鱗太郎 文 沢田としき 絵
 佼成出版社

図書館員の本棚(12)

「ささやかだけれど、役にたつこと」

レイモンド・カーヴァー傑作選 他所収 村上 春樹 訳

ミニマニストという言葉があります。表現をシンプルに磨き上げ、作品を生み出してきた作家たちへの呼称です。邦訳者に紹介されたことで、日本の読者にも広く知られるようになったカーヴァーですが、彼もそのひとりで見なされています。

息子の誕生日を祝うために、パン屋にケーキを特注する母親。典型的なミドルクラスの日常が描写されます。ところが、その息子が交通事故に巻き込まれ、一気に物語は暗転します。パン屋には、息子の名が飾り付けられたケーキが、引き取り手のないまま放置されます。そして、ふたりきりで帰宅するしかなかった両親のもとに、ベルが鳴ります。

「あんたのスコッティー。あんたのためにあの子を用意してある」と男の声があった。「あの子のこと忘れたのかい？」
「悪魔！」と彼女は叫んだ。「……どうしてこんな酷いことするの？」
「あんたスコッティーのこと忘れたのかい？」そして男はガチャンと電話を切った。

閃くものがあつた両親は、深夜、パン屋に車を走らせませす。

「何の用だね、いったい？」とパン屋はいった。「ご注文のケーキがほしいのかね。……そのケーキ作るのには時間もかかったし、金もかかった……」
……「ケーキをもっと焼いてちょうだい」
「なあ奥さん、あたしはおまんまを食うために一日十六時間ここで働いているんだよ。……ここで昼といわず夜といわず働いている」

パン屋の男が、仕事道具ののし棒に手をかけ、一触即発の緊張が走ります。

「子供は死にました。……月曜の朝に車にはねられたんです。死ぬまで、わたしたちふたりはずっと子供に付き添っていました。……」彼女は小麦粉の散った木のテーブルに寄り掛かり、両手で顔を覆った。……

パン屋の表情が劇的に変化します。数日間ほとんど飲食できていないふたりを座らせませす。「よかったら、あたしが焼いた温かいロールパンを食べてください」
悲痛と疲労で、惨めに打ちのめされていた両親のうちがわを、焼き立てのパンの味覚が、ゆっくりと満たしてゆきます。

二人はロールパンを食べ、コーヒーを飲んだ。パン屋はそれを見て喜んだ。それから彼は話し始めた。パン屋が孤独について、中年期に彼を襲った疑いの念と無力感について語りはじめた時、ふたりは肯きながらその話を聞いた。この歳までずっと子供も持たずに生きてくるといものがどれほど寂しいものか、……オープンをいっぱいにしてオープンを空っぽにしてという、ただそれだけを繰り返すことが、どういうものかということ……。

和解は成立したのでしょうか……。解釈は、読者に委ねられています。ただ、この後に続く、焼き立てのパンの香りに包まれた夜明けの情景が、数あるカーヴァー作品の中でもひととき印象に残る作品です。

レイモンド・カーヴァー
1938～1988

米国の小説家、大学等で文芸創作の講座を多数担当。著作多数。1977年、「頼むから静かにしてくれ」(全米図書賞候補) 1981年、「風呂」(カルロス・フェンテス小説賞) 1983年、短編集「大聖堂」(全米図書批評家サークル賞候補) 1984年、「大聖堂」(ピュリッツァー一賞候補)。

No
Image

「レイモンド・カーヴァー傑作選」
村上 春樹 訳
中央公論社

No
Image

「世界は何回も消滅する」
レイモンド・カーヴァー他
青山 南 編・訳
筑摩書房

No
Image

「風の歌を聴け」
村上 春樹 著
講談社文庫

(予告) 資料展示

◇ 「災害・防災」

東日本大震災に関する図書を中心に日本経済、原子力発電所、防災などの図書を展示します。(貸出可)

No
Image

「がれきの中で本当にあったこと」

産経新聞出版社

期間と場所 2F展示コーナー

8月2日(火)～
9月29日(木)

(予告) 作品展示

No
Image

「カモフラージュの本」
ルネ・メトレ 絵・他
岳陽舎

◇ 「虫たちのかくれんぼ」

擬態(カモフラージュ)
…標本と関連資料…

期間と場所 2F展示コーナー
8月2日(火)～9月29日(木)

虫たちは様々な方法で捕食者から身を守ります。そのひとつ、擬態についての展示です。

奈良-あすかベンチャークラブ 図書のご寄贈 (5万円相当)



毎年ご協力いただいている奈良-あすかベンチャークラブの皆さんが、今年も来館してくださいました。寄贈図書資料は、子どもたちの学習や楽しみに役立てられます。(6月28日 館内で)



館内には、対面朗読室、拡大モニター、車椅子席、点字資料、大活字本を備えています。また、身障手帳を所持されている方などには郵送貸出も行っています。



対面朗読室と郵送貸出の利用には、所定の手続きが事前に必要です。該当条件などの詳細は、直接お問い合わせください。

図書利用カードの更新手続きについて

- ◇ 手続きに必要なもの
- ① 図書館利用カード
- ② 現住所を確認できるもの(運転免許証や健康保険証など)
- ③ 県外の方は、在勤、在学を証明できるもの

平成23年4月より、3年ごとに有効期限を定めて、住所等の確認をさせていただいています。更新対象の方には、有効期限の60日前から貸出時等にカウンターでお知らせしています。更新をしないと、貸出ができなくなるだけでなく、ホームページや携帯サイトからのログインもできなくなります。

詳細は、来館時にカードをご提示のうえ、おたずねください。



檜原市立図書館

〒634-0075
檜原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

着任挨拶に代えて

植物たちが、慈愛の雨を内に蓄える梅雨が明けた。水蒸気を含んだ日本独特の空気感の中で、木々はますます緑を濃くしてゆく。これから幕が開ける灼熱の季節への、着実な準備であるかのようだ。▼9年ぶりに図書館に戻った。以前の図書館や館をとりまく状況と現在を比較すると、その変わり様に息を飲む思いがする。もしかすると、これからの数年は、図書館にとって重要な期間となるのかもしれない。社会教育、生涯学習施設としての役割と使命に、改めて思いを致している。

梅雨ににじんで見えるのは置かれたままの椅子である。私から外れた私の居場所のようでもあり在ることすらも亡くしてしまった風化さ中の骨のようでもある。たぶんそれはそここのところで待つしかない何かだ。去ったあとではけってなくそこで飛沫をあげて誰もいない声がかぐもっているのだ。行き届いた囲いのまさにその茂みの奥で滴っても洗われはしない新緑が息吹いている。もはや雨は自らが洗われたいために降り続くのである。だからこそ梅雨のなかでは誰ひとり肩を反らさない。見えても見えないぬかるむ国の田畑が見えないでそこで濡れそぼっている声が見える。つくねんとしづきにはげながら白い椅子が梢の向こうでもやっている。（「雨の奥で」金 時鐘）

▼存在することの難しさと厳しさに襟を正し、関係各位のご鞭撻に謙虚でありたいと願っている。（館長）

手づくり絵本教室

絵本作家 金尾 恵子先生を講師に迎えた教室です。

日 時 8月9日(火)・8月10日(水)
午後1時～3時

場 所 かしはら万葉ホール
4F研修室2

対 象 市内在住の小・中学生とその保護者の方で、2日ともに参加可能な方
※必ず保護者同伴でご参加ください。子どもだけの参加はできません。

定 員 親子合わせて70名 ※応募多数の場合は、初参加の方を優先した上で抽選をおこないます。

参加費 無料

持 参 品 えんぴつ、消しゴム、その他絵本にしたい画材(絵の具、色鉛筆、サインペン、色紙など) ※クレヨン是不可

申 込 法 7月24日(日)までに図書館1Fカウンターに直接お申し込みください。参加の可否は7月27日(水)に図書館1F掲示板と図書館ホームページに告知します。個別のお知らせはおこないませんので、ご自身で上記をご覧になるか、電話で図書館にお問い合わせください。



作品展示と資料展示（現在展示中です）

「リサイクル館かしはら 作品展」

期間 7月30日(土)まで
場所 2F展示コーナー



表紙の写真

4月23日は「子ども読書の日」でした。檜原市立図書館でも、檜原文庫連絡会、檜原おはなしの会、檜原市図書館ボランティアの会のご協力を得て、「親子で楽しむおはなし会」をおこないました。

(1) 「差別をなくす強調月間」

期間 7月30日(土)まで
場所 2F展示コーナー

(2) 「季節の絵本 夏」 「夏休みに読んでほしい本」

期間 8月30日(火)まで
場所 1F展示コーナー

